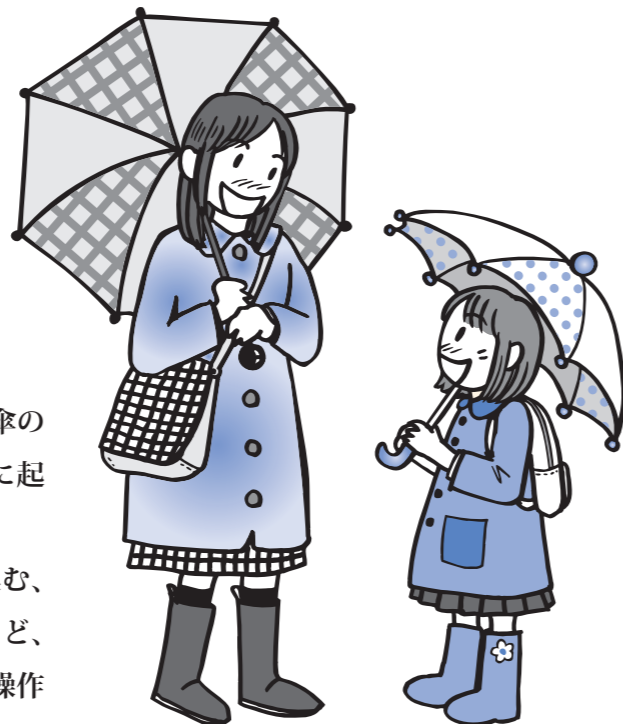


事故を防ぐために

- 子どもに傘で遊ばせない、また、傘を持ったままふざけないように正しい取り扱い方を教えましょう。
- 使う前にバリや鋭利な部分、壊れた部分がないか点検しましょう。
- 折りたたみ式のジャンプ傘や自動開閉式傘の事故は、傘を閉じる際や傘袋に収納する際に起きています。
中棒がきちんとロックされるまで押し込む、開閉ボタンに触れないように気をつけるなど、十分注意しましょう。また、顔の近くでは操作しないようにしましょう。



事故を防ぐために、業界へ以下の要望をしました。

重い後遺症が残る事故も発生しているため、メーカーはジャンプ式や自動開閉式折りたたみ傘の安全面について検討してください。また、メーカーと協力して販売事業者等は、使用上の注意点が容易にわかるように表示を工夫してください。

- 本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。
<http://www.kokusen.go.jp/kiiken/index.html>
- 本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。
<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、協力病院等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。
特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。
商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。
無断転載はお断りいたします。

独立行政法人
国民生活センター

〒108-8602 東京都港区高輪 3-13-22 TEL.03(3443)1208 ● 2009年7月発行

くらしの危険 Number 290

かさ 傘の事故

雨の日には必需品の傘です。

最近は日傘も必需品となりつつあります。

ボタンを押すだけで開くジャンプ傘はすっかりおなじみになりましたが、閉じる操作もボタンでできる自動開閉式の傘もみられます。便利な面もある一方、重い事故も起きています。

かさ 傘の事故 の傾向

危害情報システムには、2004年度から2008年度の5年間に傘の事故が60件ほど寄せられています。けがをした人は、10歳未満の子どもと50代以上に多くなっています。けがの内容では、手・指の切り傷や、顔や目の打撲傷が多くなっています。子どもはふざけたり遊んだりして傘がぶつかったり、大人はジャンプ傘の開閉時にけがをしています。



こんな事故が起きています



子どものけが

ケース 1 学校の帰りに
友だちの傘の先が
右の上まぶたにあたり刺し傷を負った。
(7歳 男児)

バリや鋭利な部分で切った

ケース 2 100円ショップで買った傘。
上ハジキ（広げた傘を固定する部品）にとがった部分があり、
閉じようとした時に指を1.5センチほど切った。
(50代 女性)

壊れて手をはさんだ

ケース 3 孫の学童用ジャンプ傘を借りて差そうとしたら、
大きな音がして何かははずれ傘の骨がばらばらになった。
その際右手の人さし指に血豆ができて腫れた。予備用で2、3回しか使っていない。
(70代 女性)



ジャンプ傘で歯が折れた

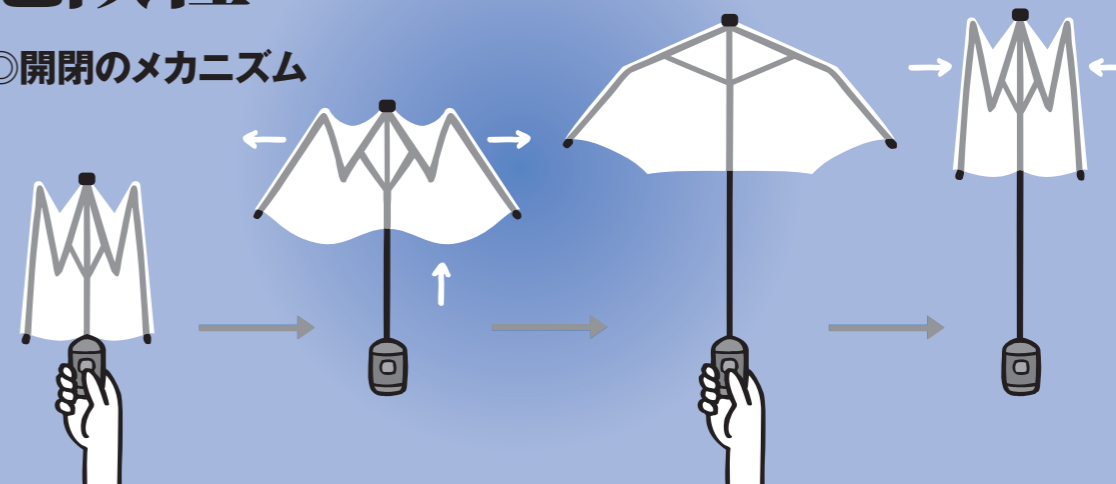
ケース 4 ブランド品の折りたたみ式ジャンプ傘。
ほとんど使用していなかったが、昨日、
使用後に傘袋に収納しようとしたところ、
誤ってボタンを押したらしく傘の柄が勢いよく飛び出した。
唇を切り、前歯にひびが入った。収納時の注意書きはなかった。
(20代 女性)

自動開閉式傘で重い後遺症が残った

ケース 5 自動開閉式の傘をたたみ、傘袋に入れるため持ち替えようとした時に突然、
柄の部分が伸びてきて左目を直撃した。
医師の診察を受けたところ眼内で出血起こしていることがわかり、
1ヶ月ほど通院したが、瞳孔が開いたまま閉じない散瞳と診断され、
一生治らないと言われた。(40代 女性)

自動開閉式傘の危険性

◎開閉のメカニズム



◎柄(手元)の衝撃について

中棒を押し込む際、手を離してしまったり開閉ボタンに触れてしまった場合などに、中棒が勢いよく飛び出してしまい、柄(手元)が顔などにぶつかる事故があります。このときの衝撃がどの程度かを調べてみました。

柄(手元)から垂直方向に10cm離れた位置に空のアルミ缶を設置し、中棒が伸びて柄(手元)が勢いよくアルミ缶に当たってできたくぼみの程度を調べたところ、3銘柄とも衝撃でアルミ缶が大きく変形するほどの強さでした。

◎注意表示について

いずれも使用上の注意はありましたが、内容や文字の大きさにはばらつきがありました。操作を誤るとけがをする可能性が複数カ所に記載されており文字も大きいものがある一方で、子どもの使用時には保護者が注意をすること等は表示されているものの、けがをする可能性は明記されておらず文字が小さいものや、開閉時に指をはさまないように注意を促す記載のみのものがありました。